

ゴミゼロ社会へ

④

焼却施設のある本郷地区では、「地元から積極的にごみの減量化を」との考えからミックスペーパー運動の積極的な取り組みをしています。

市では、平成3年度から紙類の分別回収を始め、ごみの減量化資源化を図っています。紙類については、新聞、チラシ、雑誌、ダンボール、牛乳パックなどの回収を行っており、年々回収量は増加しています。

しかし、可燃ごみの中には、まだ封筒、おカしの箱などの再生できる紙類(ミックスペーパー)が多く含まれており、ほとんどが焼却処理されています。

市が、家庭から排出された可燃ごみの組成分析を行ったところ、ミックスペーパーの占める割合は、重量比にして約5・6%という結果が出ています。これらを焼却せずに資源として分別すると5000万円以上の処理経費が削減され、資源の有効活用が図られることとなります。

ミックスペーパーも分別へ 包装紙など可燃ごみでも ひと手間かけ有効活用を

なりませぬ。ぜひ、ミックスペーパーの分別にご協力をお願いいたします。
●ミックスペーパーとは?
新聞、ダンボールなど現在分別している以外の紙をいいます。(例)たばこの紙箱、包装紙、メモ紙、レシート(感熱紙は除く)、コピー用紙、ノート、カタログ、パンフレットなど

●出し方

再生可能な紙袋(手さげ袋も可)または透明・半透明袋に入れて、中身が出ないようにしっかりと閉じて出してください。

●出すときの注意点

粘着テープ、シール、セロハン、ビニールなどは紙として再生できません。必ず取り除いてください。
紙はぬれると資源になりません。回収日が雨天の場合は、透明のビニール袋に入れるなど、ぬれないようにして集積所に出してください。

●出せないもの

写真、ビニールコート紙、合成紙、防水加工紙、感熱紙、カーボン紙、ティッシュペーパー、あぶら紙など。

問 資源対策課(内54)

市民一人ひとりが分別にひと手間かけることが、ごみの減量化、資源化につながるだけでなく、森林保護など、大切な地球環境を守ることに

市長への手紙

35

人命優先の市政 救急率向上への 取り組みは?

高規格救急車および救急救命士が全隊配備されている市域では、ひん死の状態に陥った時の救急率が向上しています。海老名市での取り組みはいかかですか。財政事情等はあるかと思うが、人命優先の市政が必要だと思えます。

50代 男性

《市長からの回答》

海老名市の救急体制の現状は、高規格救急車4台、救急救命士14人で救急業務を実施することにも、市民や事業所などに対しては、救急救命講習などの普及活動を実施し救急体制の充実を図っております。

救急隊には常時1人以上の救急救命士を配置しており、心肺停止患者に対して高度な救命処置が確実に実施できる編成をしております。

高規格救急車については、計画的に更新をし、救急救命士の養成に関しては、その養成率(救

救急救命士は常時1人以上配置 高規格救急車も計画的に更新

急車に対する救急救命士の割合は、230%以上であり、近隣市との比較では高い割合となっておりますが、今後も養成を進めてまいります。また、市民等への救急普及活動を推進するとともに医療機関とも調整を図り、海老名市の救急体制の充実・強化を図ってまいります。

「みなさんの声・市長への手紙」は、毎月15日号で、みなさんから寄せられた「市長への手紙」を抜粋して掲載しています。

問い合わせ
広報広聴課(内274)

「みなさんの声」毎月15日号で掲載



電動式フォークリフト1台

リサイクルプラザ =現在建設中= に寄贈されました

3月29日、スチール缶リサイクル協会(旧称IIあき伍処理対策協会)が電動式フォークリフト1台(写真)を市に寄贈し、市長室で贈呈式が行われました。このフォークリフトは、現在建設中のリサイクルプラザが完成した後、同施設内で分別された缶やびんなど、資源物の運搬に使われることになっており、活躍が期待されています。

市職員春の人事異動

新採用16含む237人を発令

市では、4月1日付で、部長級18人、課長級55人、副主任級36人、係長級48人、主任主事級37人、主事級22人、主事補級(新採用)16人、技能労務職5人を含む237人の人事異動を発令しました。

- ▽秘書部参事兼秘書課長(まちづくり部参事兼都市計画課長) 門倉 正
- ▽企画部参事兼市民活動課長(企画部市民活動課長) 加藤 邦夫
- ▽保健福祉部参事兼保険年金課長(保健福祉部保険年金課長) 飯島 民夫
- ▽保健福祉部参事兼児童福祉課長(保健福祉部児童福祉課長) 鴨下 益美
- ▽生活環境部長(建設部参事・下水道担当) 小沢 英雄
- ▽生活環境部参事兼市民課長(教育総務部参事兼総務課長) 黒沼 善長
- ▽建設部参事(不用物件・登記処理担当)(消防本部参事兼消防)



有馬小にウコッケイの赤ちゃん誕生



(左上)飼育委員会のみなさんと(上)ウコッケイの親子

○:有馬小学校では、2年前からウコッケイを飼育していますが、3月中旬に初めて赤ちゃん3羽が生まれ、今では11羽。学校じゅうが喜びに包まれています。
○:ウコッケイは飼育委員会の児童たちが主に世話をし、保護者や農家の方がエサの一部を寄付するなど、地域みんなの力で育てられています。
○:生まれたひなは、親鳥のまねをしながら、今日も元気よくえさをついばんでいます。近く幸せな名前が命名されることになっていきます。

「市長への手紙」全戸配布を廃止

市役所ほか市公共施設に設置します

「市長への手紙」は、市民のみなさんご意見・ご要望に市長が直接目を通し、市政に生かすためのものとして、四半期ごとに、自治会のご協力を得て全戸配布してきましたが、今年度から全戸配布をやめ、市役所、各コミセンなど市公共施設への設置のみとします。

昭和48年度の創設以来、毎年約4万世帯への配布を行ってききましたが、これに対する回収率は80通前後と2%以下であり、残りの98%が廃棄され続けてきたこととなります。地球規模での環境保全が叫ばれるなか、森

林資源減少に対する配慮と経費削減の理由から、今回の全戸配布廃止に至ったものです。「市長への手紙」の取り扱いにつきましては、従来どおり、市で対応できるものは、担当課などで調査のうえ、迅速かつ誠実に対応します。また、県や警

▽送付先 〒243-0492 勝瀬175番地の1「市長への手紙」担当へ。

問 広報広聴課(内274)。